

インフォメーション・コーナー

会 告

○農業農村工学会平成 30 年度定時総会（通算第 51 回）の開催について 5 月 29 日開催	90
○平成 30 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加者募集 申込締切 6 月 15 日	90
○動画募集中！ こりゃ映像！ 2018 —ミニ動画コンテスト— 応募締切 7 月 31 日	91
○学生会員入会時の特典について	91
○平成 30 年度「研究グループ」への助成希望者募集について（再） 申請締切 6 月 29 日	92
○平成 30 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再） 申請締切 9 月 14 日	92
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	93
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集！！	93
○平成 31 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	94
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	95
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について	96
○土壌物理研究部会第 57 回研究集会の開催について（第 1 報） 10 月 26 日開催	97
農業農村工学会論文集内容紹介	98
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	99
受入れ図書	100
文献目録	100
学会記事	103

第 86 巻第 6 号予定

展望：北辻政文

小特集：ストックマネジメント関連技術の研究・開発の取り組み

報文：低温硬化性や耐久性に優れた農業用水路用目地充填材の開発：森 丈久ほか

報文：X 線 CT 画像を用いた建設材料の凍害損傷に関する詳細調査：島本由麻ほか

報文：PC 管の劣化診断のための電磁波レーダ探査法の現地適用性：木村守充ほか

報文：50 年曝露された合成ゴム系遮水シートの物性変化：森 充広ほか

報文：銅製集水井の老朽化実態と点検手法における課題：稲葉一成ほか

報文：寒冷地の劣化特性に対応したコンクリート施設機能診断手法：石神暁郎ほか

報文：コンクリート開水路のひび割れ補修における課題と対応策：上條達幸ほか

報文：管水路のカプセル型漏水探査装置の開発：浅野 勇ほか

技術レポート

北海道支部：北海道の農地法面における BSC 工法の適用事例：冨坂峰人ほか

関東支部：東富士ダムにおける耐震性能照査と緊急放流体制の検討：一瀬健史ほか

京都支部：円山川蓼川堰の全面魚道の効果：吉井清文

中国四国支部：傾斜地水田における作業省力化：岡田祐典

九州沖縄支部：地下水位制御システムの導入による水田の汎用化：戸次千里

講座：農業農村整備のための生態系配慮の基礎知識（5）

—水田・ため池の水生昆虫とその保全—：中西康介

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成30年6月30日	農業農村工学会ほか	平成30年度JABEE農学系分野審査講習会 Ⓟ	—	東京都	86巻5号
平成30年9月4～7日	大会運営委員会	平成30年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	京都市	85巻12号 86巻1,4号
平成30年10月25, 26日	九州沖縄支部	平成30年度支部大会 Ⓟ	—	熊本市	86巻4号
平成30年10月26日	土壌物理研究部会	第57回研究集会 Ⓟ	土壌環境と気候変動(仮)	札幌市	86巻5号
平成30年11月7, 8日	京都支部	第75回研究発表会 Ⓟ	—	名古屋市	86巻4号
平成30年11月20～22日	農業農村工学会ほか	PAWEES-INWEPF 国際会議 奈良2018 Ⓟ	Promoting sustainable paddy farming to achieve the SDGs	奈良市	86巻1,3号

農業農村工学会平成30年度定時総会（通算第51回）の開催について

公益社団法人農業農村工学会定款第18条により、平成30年度定時総会を下記により開催いたしますので、代議員にはご出席くださるようご案内申し上げます。なお、定款第18条4項により、正会員および名誉会員は総会に出席して、議長の了解を得て意見を述べることができます。

議案の詳細につきましては、学会ホームページに掲載しています。

記

- 日時 平成30年5月29日(火) 14:00～15:00
- 場所 農業土木会館2階A会議室

3. 議案

審議事項

- 平成29年度事業報告
- 平成29年度決算
- 理事及び監事の選任
- 名誉会員の推挙

報告事項

- 平成30年度事業計画
- 平成30年度収支予算

平成30年度JABEE農学系分野審査講習会への参加者募集

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



JABEEに対する農学関係者の一層の理解とJABEEプログラム修了者を受け入れる側の理解と協力を得るため、農学関係学協会が共同で講習会を開催いたします。多くの皆様の参加を期待しております。奮ってご参加ください。なお、本講習会はJABEE公認で、講習会の参加修了者はJABEE審査員候補者として登録され、本審査のオブザーバー参加を経て審査員の資格が得られます。

- 日時 平成30年6月30日(土) 9:45～17:30
(情報交換会 17:30～)
- 会場 東京大学弥生講堂アネックスまたは一条ホール
(東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内)
- 主催 (公社)農業農村工学会、(公財)農学会、(一社)森林・自然環境技術者教育会、(公社)日本生物工学会
- 参加費 3,000円(当日、現金で支払い)
情報交換会費:2,000円(当日、現金で支払い)
- 申込先 農業農村工学会事務局 花塚あて
E-mail: hanatsuka@jsidre.or.jp

6. 申込締切 平成30年6月15日(金)

7. プログラム(案)

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 9:00～ | 受付開始 |
| 9:45～9:50 | オリエンテーション(スケジュールの説明) |
| 9:50～10:00 | 開会の挨拶 |
| 10:00～11:00 | JABEE認定制度および技術士制度との関係 |
| 11:00～11:50 | JABEE認定基準の解説(昼食) |
| 13:00～14:10 | 認定・審査の手順と方法、審査手引きの解説 |
| 14:10～14:40 | 自己点検書の作成について |
| 14:40～14:55 | Eラーニングの方法と活用の説明(休憩) |
| 15:10～16:10 | 実地審査について |
| 16:10～17:30 | 質疑応答 |
| 17:30～ | 情報交換会 |

動画募集中！ こりゃ映像！ 2018 —ミニ動画コンテスト—

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

平成30年度のテーマは「私のかんがい施設遺産（仮）」です。「かんがい施設」とは、農地に水を配るために使われている施設で、ため池や用水路、堰などです。私たちの周りには、歴史あるかんがい施設が今も変わらず使われ続けています。中でも、世界に誇るかんがい施設として27カ所のかんがい施設が「世界かんがい施設遺産」に登録されています。

今年のこりゃ映像では、そのような「世界かんがい施設遺産」を代表とする身の回りの歴史あるかんがい施設を対象に動画を募集したいと思います。身の回りの歴史あるかんがい施設の魅力を60秒に込めてYouTubeにアップロードしてください。

1. 平成30年度のテーマ 「私のかんがい施設遺産（仮）」
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 応募締切 平成30年7月31日（火）17時
4. 応募資格 なし（どなたでも応募できます）
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタグを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞（1作品）2万円

優秀賞（2作品）各1万円

8. アップロード方法

- ① 動画を作成する。
- ② YouTubeにアップロードする。
- ③ タグに3つのワード（jsidre2018、こりゃ映像、（テーマ未定））を入れる。
- ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
- ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT（jsidre.eizo@gmail.com）宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube動画のURL）

9. こりゃ映像2017 結果（テーマ：農業用水）

最優秀賞：【農業用水】人と自然の力

弘前大学農学生命科学部地域環境工学科4年 山口裕里絵
https://www.youtube.com/watch?v=y5J1-Ox_S7A

優秀賞：私の町の農業用水

岩手大学農学部農学生命課程3年 瀧田耀平
<https://www.youtube.com/watch?v=owtqvopLgzA>

優秀賞：こりゃ映像2017 金沢工業大学 徳永研究室

金沢工業大学 徳永研究室修士1年 笹原弘道
<https://www.youtube.com/watch?v=uP0Ra69-BRo>

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット

（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）

学部生 17,000円（15,750円）

大学院生 19,500円（16,750円）

②必携3点セット

（必携＋用語事典＋初年度会費）

学部生 7,000円（5,750円）

大学院生 10,000円（7,250円）

③2点セット

（用語事典＋初年度会費）

学部生 5,000円（3,750円）

大学院生 8,000円（5,250円）

（ ）内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先 （公社）農業農村工学会 図書係

E-mail：suido@jsidre.or.jp

平成30年度「研究グループ」への助成希望者募集について（再）

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度、3件以内です。

本年度の申請締切は、平成30年6月29日（金）ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式（学会ホームページ参照）で研究委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究すること

が学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ)「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ)「研究グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

(ニ)「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締切日に40歳未満であること。

(ホ)代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注1)研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

注2)「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

平成30年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再）

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度（原則1件20万円以内）です。

本年度の申請締切は平成30年9月14日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループ

と金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。

3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ)「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

(ハ)代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。
- また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

- 締切：平成30年9月14日（金）
 申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて
 E-mail：tkiku@jsidre.or.jp
- 必要記載事項：**
- (1) WG名（または部会名） (2) 代表者名・所属
 - (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
 - (5) 研究の目的と内容（500字程度）
 - (6) 研究資金申請応募先（予定）

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）
法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。
 銀行：みずほ銀行新橋支店
 普通預金 No.1569058
 口座名 (社)農業農村工学会学術基金
 郵便振替：00140-2-54031
 加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格
 農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法
 Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限
 問題掲載月の月から翌月末日まで
 （例：学会誌5月号掲載の問題は6月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位
 10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期
 取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 31 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 31 年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真を基本に表紙を飾ることとします。なお、平成 30 年発行までの本趣旨を若干変更いたしましたので、趣旨を参考に魅力ある写真をふるってご応募ください。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は稲作農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業（水利）施設は、水田を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の食生活と文化などを支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然、地勢や地形に溶け込み、地域の文化を育み農村地域の景観を形成する重要な構成要素となっています。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。また、現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物（国外においては日本の関連技術が適用された事例）の匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：先人たちや現代の技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美」

2. 対象巻号 学会誌第 87 巻（平成 31 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送って

ください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春期 平成 30 年 6 月 30 日

夏季 平成 30 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限り

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 87 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 31 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」執筆について

採用作品の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」としてご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが別途原稿料をお支払いします。

10. 著作権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第 86 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 縮 切 (A 4 判 1,500 字以内)
第 86 巻第 6 号	ストックマネジメント関連技術の研究・開発の取組み	公募終了
7 号	近畿の農村振興事業と京都支部賞研究紹介 (大会特集号)	公募なし
8 号	湖沼の水環境と農業とのかかわり (仮)	公募終了
9 号	明治 150 年と農業土木 (仮)	公募終了
10 号	SDGs と農業農村工学 (仮)	5 月 25 日
11 号	中山間地域の将来を見据えて (仮)	6 月 25 日
12 号	水田圃場を「フル」に活用するためのビジョンとそれを支える技術開発 (仮)	7 月 25 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(公社)農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
E-mail : henshu@jsidre.or.jp

第 86 巻第 10 号テーマ「SDGs と農業農村工学」(仮)

2001 年に国連で策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) は、発展途上国向けの開発目標として、2015 年を期限として 8 つの目標が設定されました。結果として、MDGs は一定の成果を達成しましたが、未達成の課題も残されました。

MDGs の後継として、2015 年 9 月に国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が全会一致で採択されました。SDGs (Sustainable Development Goals, 持続可能な開発目標) は、このアジェンダに記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標であり、先進国を含む国際社会全体の開発目標として、持続可能な世界を実現するための 17 のグローバル目標 (分野別目標) と、169 のターゲット (達成基準) から構成されています。SDGs の重要なポイントは、格差問題、持続可能な生産や消費、気候変動対策など、先進国が自国内で取り組むべき課題を含むため、発展途上国に限定しない

普遍的な目標と位置づけられている点です。

SDGs が設定するグローバル目標や達成基準の中には、水・衛生 (目標 6)、インフラ、産業化、イノベーション (目標 9)、持続可能な生産と消費 (目標 12) など、農業農村工学がこれまでも関与し、また今後も主導的に取り組むべきものが多数あります。

本小特集では、農業農村工学の分野が、① MDGs に対して過去どのような貢献をしてきたのか、② SDGs に対してどのような寄与が期待されているのかを俯瞰します。さらに、農業農村工学の分野の③今後の SDGs に対する取組みの具体化、④ SDGs に関わる人材育成、などについて、取組事例や課題・知見について、技術者・研究者・行政などのさまざまな立場からご紹介を頂き、情報共有のみならず、当分野の積極的な関与と今後の展開を図るための手がかりとなることを目的とします。学会誌掲載の報文として広く皆様から原稿を募集いたします。

第 86 巻第 11 号テーマ「中山間地域の将来を見据えて」(仮)

多様で特色のある中山間地域の農業は、全国の耕地面積の約 4 割、総農家数の約 4 割を占めるなど、日本農業の中で重要な位置を占めていることから、中山間地域等直接支払制度などを通じた政策的支援がなされており、その効果を上げている地域が全国に存在します。一方で、生きがい・やりがいとして補助金などの制約を受けない農業を営みながら、先祖代々の土地を守っている人々も多くいます。小・中・高校生や都市住民、障

がい者などへの農業体験機会の提供、女性グループによる農家レストランや直売所の経営、SNS などを利用した農家民宿や民泊のプロモートなど、教育・福祉・観光の側面からの取組みも全国各地にみられます。

条件的に有利な平地の農業には産業として成立させるために強い農業を目指すという明確な将来像があります。一方、多様な取組みがなされているとはいえ、中山間地域といった条件不

利地域で集落を維持し、活力ある地域を持続させていくためには、長期的な視野に立った対策を今から始めなければなりません。比較的近い将来については、「小さな拠点」などのビジョンはあるにせよ、30年・50年後を見据えた将来像はあまり明確にされておらず、中山間地域の住民は先行きが見通せない状況で不安を抱えているのが現状ではないでしょうか。またこれら地域への息の長い政策的支援をするためには、その必要性を訴求するメッセージを一般国民に向け広く伝えていく努力も払わ

れねばなりません。

学会誌第86巻第11号では、①10年後といった今の延長線上で考えられる近未来の中山間農村の将来像とともに、②30年後・50年後の農村や地域のあるべき姿や、③中山間地域を継続的に支援していくため国民に知ってもらうべきことや伝えていくべきメッセージ、④これらのために農業農村工学が貢献できることについて、広く会員の皆様から報文を募集します。

第86巻第12号テーマ「水田圃場を『フル』に活用するためのビジョンとそれを支える技術開発」(仮)

世界の食料需要は、人口増加と食生活の変化に伴って2050年には約69億tまで増加する見通しであり、生産単収の伸び率の鈍化や地球環境の変化による生産量低下のリスクから、国際的な食料争奪が懸念されています。

一方、わが国では人口減少・高齢化などにより主食用米の需要が減少する中、米政策の改革を着実に進め、農業経営体が自らの経営判断に基づき作物を選択できる環境を整備するため、平成30年度産米からは生産調整が廃止されることとなりました。

このような現状の中で、日本農業の基盤である水田での生産を維持し、米を安定的に供給することに加え、食料自給率・自給力を向上させ、多面的機能の維持強化を図る必要があります。水田での生産物である米のおいしさや安心・安全を確保しつつ、水稲作の省力化・低コスト化を進めるほか、麦・大豆・

飼料作物などの主食米以外の生産により水田を最大限に有効活用(フル活用)することも求められています。

これらの取組みには、水田の大区画化、排水改良や地下水水位制御システムなどを利用した水田の汎用化・高機能化、ICTなどを活用した水管理・営農の省力化、コスト低減、気候変動への対応、多面的機能強化などに関するさらなる技術開発とその導入が求められます。また、そのためのビジョンの作成や、こうした取組みを支える農業者への支援も欠かせません。

そこで本小特集では、水田圃場を「フル」に活用するためのビジョンや技術の紹介、その取組み事例や課題、展望、調査や研究の成果、最新技術の開発について、事業主体、行政、大学、研究機関、開発事業者およびメーカーなどから広く報文を募集いたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016年7月から2018年6月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界14カ国からEditor (20名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2016年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ Editor-in-Chief : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Institute for Rural Engineering, NARO (National Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan
- ・ Editors 14カ国から20名
- ・ Advisory Editing Board 29名
- ・ Chief Management Editor
Dr. Yu-Pin LIN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China
- ・ Managing Editors

Dr. Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul
National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China

Mr. Nobuyoshi FUJIWARA

Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Science (JIRCAS),
Japan

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata
University, Japan

編集事務局 (2016年7月から2018年6月まで) :

・ **Dr. Yu-Pin LIN**

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering,
National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan,
Rep. of China

TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980

FAX : + 886-2-2368-6980

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になり
ます。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者である
こと。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載してい
ます。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず
農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度
からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局

土壌物理研究部会第57回研究集会の開催について (第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催 農業農村工学会土壌物理研究部会

共催 土壌物理学会

2. 日時 平成30年10月26日(金) 13:00~17:00

3. 場所 北海道大学農学部4階大講堂

4. 参加費 1,500円 (要旨集代, ただし学生は無料)

5. 研究集会テーマ 土壌環境と気候変動 (仮)

6. プログラム 調整中

7. その他

・ 宿の予約は個別に手続きをしていただきますようお願いいた
します。時節柄混み合うことが予想されています。でき
るかぎり早めの予約手続きをお願いいたします。

・ 後日の10月27日(土), 同所にて「土壌物理学会シンポジ
ウム」を開催予定です。情報交換会は後日開催の土壌物理
学会と共催します。詳しくは土壌物理学会ホームページ

(<https://js-soilphysics.com/conf>) をご覧ください。

・ Hydrus 研究集会の共催について : 平成30年9月20日
(木) に東京大学農学部にて HYDRUS 研究集会「多孔質
体中の水分・溶質移動のモデル化と数値解析」を, 9月18
日(火), 19日(水) に東京農工大学において HYDRUS 講
習会を土壌物理研究部会と共催します。詳しくはホーム
ページ ([http://web.tuat.ac.jp/~hydrus2018/index_j.
html](http://web.tuat.ac.jp/~hydrus2018/index_j.html)) をご覧ください。

8. 問合せ先

農業農村工学会土壌物理研究部会事務局

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1

佐賀大学農学部生物環境科学科 徳本家康

TEL : 0952-28-8755 E-mail : yasu@cc.saga-u.ac.jp

<http://www.jsidre.or.jp/dojou/>